

# 洛友會報

京都大学工学部電気系教室内  
洛友會  
〒606-8202  
京都市左京区田中大塚町49  
075-701-3164

## ISO14001 環境認証取得の潮流

東京支部長 三橋 堯(昭32年卒)



我が国のISO14001

への対応状況

ISO14001は1996年9月1日に国際規格として発行され、同年10月20日には日本工業規格となった。日本のISO14001審査登録数は、規格発行後急速な伸びを示し1999年1月31日現在の登録済み数は1632件に達し先進国の先頭にある。登録済み企業体の業種内訳は、電気機械産業を筆頭に大手製造業が主体であるが、既に発・変電所、廃棄物処分場、建設業、商社、食品、スーパー・生協等の流通、金融、

病院、レジャー産業にも審査登録が広がり、大学や政府機関・自治体におよぶ社会的な広がりを持ってきた。昨年2月に取得の新潟県上越市を皮切りに、政府機関や自治体自らが14001の導入に力を入れており、大阪府、埼玉県など陸統と行政の率先垂範による、地方の中小企業への波及が促進される機運にある。急速な普及の背景には、環境問題の深刻化に伴い、環境マネージメントシステムの必要性の認識が、急速に広まってきている事に加え、従来の規制への対応から、自己責任の原則に基づく自主的取り組みへの移行、急速なグローバル化の進展への対応、すなわちグローバルスタンダードの積極的取り込みと言うトレンドが加速している。

我が国は92年の地球サミットで採択されたリオ宣言、およびアジ

エンダ21を国内法で実現すべく、93年11月に環境基本法を制定、94年12月には環境基本計画を閣議決定している。環境基本計画の中では、事業者の行動を促進するため政府として「事業者による自主的な環境保全に関する方針の策定、目標の設定、計画の作成、体制の整備およびこれらの監査の実施等からなる環境管理の実施並びにそのシステムの認証を促進、支援するための方策を検討し推進する」としている。日本の産業界の姿勢を最もよく示しているのが経団連が1996年6月に発表した環境アピール、「21世紀の環境保全に向けた経済界の自主行動宣言」である。これは①地球温暖化対策②循環型社会の構築③環境管理システムの構築と環境監査④海外事業展開に当たっての環境への配慮、の4点について自主的取り組みを推進する事を宣言した。近時地方自治体の積極姿勢に見られるように、中小企業への普及と支援策が種々計画、実施されつつありISO14001の普及には一層はずみがついてくるものと期待される。

### 環境保全の視点

我々に課された、重要なテーマとして、大量生産・大量消費・大量廃棄の文明を脱却し、ライフスタイルの転換をする事が掛け替えの無い地球を子々孫々まで、守り持続可能な発展を約束するものである。各段階で廃棄される物質は、静脈物流に乗って、資源としてあるいは一次エネルギーとして、還流する循環型の社会を構築する事が急務である。省エネ、省資源の分野で世界の先端にある、我が国が大量消費文化に裏付けされた、「豊かさ」の追求がもたらす諸問題を直視し、地球上の貧困と人口問題を解決し、世界的規模で持続的発展を可能とする、健全な環境を次代に引き継いで行かねばならない。特に地球温暖化の問題はより厳しさを増し、一方では廃棄物と有害物質の管理が、差し迫った問題となってきた。①個人や組織の有り様としての「環境倫理」の再確認②技術力の向上等、経済性の改善を通じて環境負荷の低減を図る「エコエフィシエンス」(環境効率性)の実現③「自主的取り組み」の強化の3点がその要諦である。

### 環境問題とエネルギー問題

我が国のみならず、発展途上国の膨大なエネルギー需要を満たしかつ気候変動や大気汚染を抑制してゆく為にはエネルギー効率の徹底的な向上によって総需要を抑制し、クリーンエネルギー開発を加速させると共に、やはり当面は原子力発電と安全に共生してゆく事が不可欠であろう。我が国は運用保守を含めて世界に冠たる原子力安全システム技術を蓄積しており、朝鮮半島や中国は勿論、広くアジアや世界の原子力発電の安全保証に貢献する事が益々重要になってくると予想される。国民的合意が形成される事を願っている。

#### 循環型経済社会の構築

次に廃棄物問題を起こす資源の浪費につながる、使い捨て型の経済社会を見直し、循環型の経済社会に転換すべく、「廃棄物」ではなく「資源」あるいは「副産物」と位置づける発想の転換が必要である。リサイクルを社会全体の重要課題と位置づけ、計画的に廃棄物削減・リサイクルに取り組みねばならない。我々は等しく「地球市民」であることの重要性和緊要性を再確認し、一市民としても「持続可能な発展」に向けてライフスタイルを転換していく決意を表明し、前向き且つ、戦略的なものであらねばならない。取りも直さず環境問題に関する基本は①全地球的な環境の保全と地域生活環境の向上②生態系および資源保護への配慮③製品の環境保全性の確保④市民の健康と安全の確保である。PRTR等や産業廃棄物の適正な管理が進められねばならない。

#### 環境管理の仕組み

ISO14001は科学的環境影響評価を行い、その中で重要な

ものを抽出して、環境負荷低減についての改善目標を設定し、その達成計画を作成して確実に実行するということ、目標管理制度であり、事業者は売り上げや、利益と同様のレベルで環境目標を捉えて実行管理を推進する事が期待されている。トップの関与とともに重要なのは「全員参加」であり、一部環境スタッフだけがISO14001に係るのではなく、参加者が各階層それぞれの立場で環境目標の設定、改善の実行に取り組みが必要である。これも規格の要求事項として明記されており、審査機関が審査する上では、十分な確認を行っている。認証機関としては各企業が正しくISO14001の仕組みを確立して成果を挙げよう監視してゆく使命がある。環境負荷低減の為の継続的改善活動には経済効果がある事が不可欠の要素である。経済的なメリットとともに、参加者の意識の向上、全体としての管理能力の向上、業務の効率化などが得られるのである。我が国はこのような環境管理を推し進め、新たな経済成長を目指して行くべきである。

**教室だより**

**教官の異動**

情報学研究科通信情報システム

△専攻関係は左記のとおり  
1 定年退官 (3月31日付)  
大規模集積回路分野

田丸 啓吉教授 (昭33年卒)

(岡山理科大学工学部教授)  
情報回路方式分野助教

中島 将光 (昭35年卒)

2 昇任・新任 (4月1日付)  
助教 小野寺 秀俊 (昭53年卒)、大規模集積回路分野教授に昇任

国際電気通信基礎技術研究所主幹研究員 (NTTグループ企業本部担当部長より出向)

川合 誠 (昭47年卒)、伝送メディア分野助教に新任

東京工業大学大学院理工学研究科博士課程3年

梅原 大裕、伝送メディア分野助手に新任

電気系関係の異動は左記のとおりです。(4月1日付)

新任  
鈴木 実教授、電子物性工学専攻 (NTT基礎研究所より)

堀之内 武助手、超高層電波研究センター (アメリカワシントン大学研究員より)

昇任  
小嶋 浩嗣助教 (助手より)

超高層電波研究センター

白井 英之助教 (助手より)

超高層電波研究センター

超高度電波研究センター

**平成10年度電気系教室卒業生の進学就職状況**

電気電子工学科長

藤田 茂夫 (昭41年卒)

電気工学専攻長

牟田 一彌 (九大昭40年卒)

電子物性工学専攻長

石川 順三 (昭43年卒)

電子通信工学専攻長

中村 行宏 (昭42年数理卒)

平成10年度の電気系教室卒業生の進学及び就職状況につきましてご報告申し上げます。

本年度の卒業生は、別表に示しましたように、学部128名、大学院修士課程93名でした。この内、学部から本学大学院修士課程の進学が98名ですが、その内訳は、工学研究科 (電気工学専攻と電子物性工学専攻) 54名、情報学研究科34名、エネルギー科学研究科9名、理学研究科1名でした。また他大学の大学院への進学状況は、東大大学院 (工学系) 5名、奈良先端科学技術大学院大学へは3名となっており、他方、学部からの就職者数は20名でした。また、大学院修士課程から本学博士課程への進学者は11名 (内訳…工学研究科6名、情報学研究科5名) で、就職者数は79名でした。昨今の我が国を取り巻く大変困難な経済状況にありながら、本年

**平成10年度卒業生進学就職状況**

平成11年 3月10日

修了、卒業者数	修士	学部	進学・就職先
	93	128	
進学	6		京大大学院博士課程 (工学研究科電気系)
	5		京大大学院博士課程 (情報学研究科)
		54	京大大学院修士課程 (工学研究科電気系)
		34	京大大学院修士課程 (情報学研究科)
		9	京大大学院修士課程 エネルギー科学研究科
		1	京大大学院修士課程 (理学研究科)
		5	東大大学院修士課程 (工学系)
	3	奈良先端科学技術大学院大学	
官公庁等	1		通産省
電気・ガス通	11		関西電力、中部電力、東京電力、北海道電力、大阪ガス
	10	1	NTT、NTTドコモ、NTTコミュニケーションウエア NTTデータ、KDD、第二電電
電気関連	48	12	松下電器、日本電気、富士通、日立、東芝、ソニー、三菱、シャープ、三洋電機、日本IBM、オムロン、住友電工、古河電工、東京エレクトロン、エプソン、ローム、松下通信、八洲電機、村田製作所、キーエンス、関電工、日本ビクター、三菱スペースソフトウェア
鉄道		2	JR西日本、JR東海
機械・自動車	4	2	三菱重工、本田技研、トヨタ自工、豊田中研、レンゴー、フジテック
金融・商社等	4	3	野村証券、日本総合研、Chase Manhattan銀行、住友銀行、ゴールドマンサックス証券、SAP JAPAN、丸紅
放送	1		NHK
	3	1	
未定		1	

度も就職希望者全員が就職を果たしました。電気系教室へ求人をしていただく会社はほとんどすべてに達しております。このように多くの求人を受け、誠にありがたいことと存じている次第ですが、これも長年にわたりました諸先輩が築いてくださいました

実績の賜と感謝しております。毎年このことから、学生の就職につきましては洛友会会員の皆様にはいろいろとご高配、ご援助をいただきました。教室の学科長、専攻長といたしまして、今後とも何卒よろしくご支援賜りますようお願い申し上げます。

### 堂下修司教授退官記念行事のお知らせ

既報のとおり平成11年3月31日付けで停年退官され、左記の通り退官記念講演・パーティが行なわれますので、ご案内します。

日時 平成11年6月5日(土) 15:00～17:00 記念講演  
17:00～19:30 記念パーティ

会場 リーガロイヤルホテル京都(京都駅西徒歩7分)

記念行事に関する詳細は、左記のURLにアクセスして頂くか、  
Winnie.kuskiyoto-u.ac.jp/taikan/

河原(075-753-5333) (kawahara@kuskiyoto-u.ac.jp)までお問合せ下さい。  
退官記念会代表 池田克夫(昭35年卒)

### 田丸啓吉教授退官記念パーティのご案内

左記の通り、田丸啓吉先生の退官記念パーティを計画致しました。ぜひ御参加下さいますようお願い致します。

日時 平成11年7月3日(土) 13:30～16:00

場所 京都ブライトンホテル 英の閣  
〒606-8501 京都市左京区吉田本町

連絡先 京都大学工学部電気電子工学科  
小野寺秀俊(Tel 075-753-5314)  
小林和淑(Tel 075-753-5313)  
(FAX 075-753-5343)

### 会員寄稿

#### 戦中派の学生生活(Ⅷ)

会長 近藤文治(昭18年卒)

#### (リ) 就職決定一切符制

私達のクラスの就職の世話をし  
て頂いたのは教室主任阿部清教授  
で、戦時中であり平和な時代とは  
違った雰囲気の中の就職の斡旋  
であった。戦争中であることに基  
づく特異な制度として「一切符制」  
と呼ばれる制度があった。平和な  
時代であれば、企業は各社の都合  
で採用人数を決め、各大学の学科

教室主任に人数を指定して推薦し  
て貰い、入社試験の結果が良けれ  
ば、直ちに就職内定者として確保  
し、卒業と同時に採用すると言っ  
たのが一般的なプロセスであった。

ところが、私達の時代には、こ  
のプロセスに国家統制の網がかぶ  
せられていた。これが通称「一切符  
制」と呼ばれるものである。この  
制度は政府(軍需省?)が各会社

にその年の大卒の新規採用者の数  
を割当て、その数だけ採用できる  
とした制度である。従って割当て  
のない会社はいくら雇いたくても  
採用できないのである。こうする  
ことによって、不急の分野の就職  
者を抑え、緊急を要する軍需産業

等の従事者を確保するのが狙いだ  
ったことは明らかである。

しかし実際には、割当ての内示  
は相当早くに行われ、会社は(場  
合によっては教室主任も)予め知  
っていたらしく、「一切符制」のた  
め就職内定者が就職できなかった  
と言う話を聞いたことはなかつ  
た。これは京大生であったからか  
も知れない。

さて「一切符制」なる呼び方であ  
るが、実際に会社に一切符を発行し  
てその枚数によって採用人員が決  
まった訳ではない。当時既に主要  
な生活物資は一切符による割当制度  
が実施されていたので、これにな  
ぞらえて呼んだ言葉である。人命  
軽視の時代であったとは言え、人  
間を品物扱いすることはなかつた  
と信じていた。

当時は、採用申込会社の一覧表  
が貼り出される訳でもなかった  
が、学生の希望や家庭事情につい  
ては予め申告しており、教室主任  
はそれを踏まえて、2社ぐらいの  
具体的な会社社名を挙げて学生と面  
談しておられたようだった。

友達の就職決定に先立って、私  
は阿部教授から将来の教室要員と  
して教室に残って貰いたいとのお  
達しがあり、就職に関する限り圏  
外にあって、友達の就職が決まる  
様子をじーっと眺めていた。

(又) 風雲急  
太平洋戦争(大東亜戦争)の開

戦当初には、真珠湾奇襲攻撃によ  
ってアメリカの太平洋艦隊に壊滅  
的な打撃を与えたり、東南アジア  
方面に戦線を拡大するなど、赫々  
たる戦果を挙げ国民は大戦果に酔  
いしれた。

しかし早くも昭和17年6月のミ  
ッドウェイ海戦では、彼等のレー  
ダーの有無の差により、日本海軍  
は主力航空母艦の大半と大量の航  
空機及び兵員を失い、ミッドウェ  
イ島占拠の作戦が挫折すると共  
に、その後、制海権と制空権をア  
メリカに奪われることになった。  
そのため、遠く伸びた補給路を通  
して南方各地への軍需品並びに兵  
員を補給することは困難となり、  
戦局は急速に悪化の一途を辿っ  
た。そして遂に昭和18年5月(あ  
るいは6月)には、凄惨な戦闘の  
後、2月にガダルカナル島からの  
撤退を余儀なくされたことが発表  
された。この時の大本営発表は

「日本軍はガダルカナルから転進  
せり」と言っていたが、退却した  
のだと言うことはすぐ判った。何  
故ならガダルカナル島を捨てて他  
の方面に転戦すべき理由は何もな  
かったし、新しい作戦についても  
何も述べていなかったからであ  
る。不敗を誇った日本陸軍が遂に  
敗退したのである。国民は大きな  
ショックを受けた。

「へえ敗退のことを転進と言う  
のか。転進とは便利な言葉だなあ！」

### 平成11年度洛友会

#### 総会通知

#### 一、開催日

平成11年6月19日(土)

#### 二、場所

東京目黒「八芳園」

(最寄り駅目黒駅または品川駅  
港区白金台1-1-1)

TEL 03-3443-3111

#### 三、スケジュール

受付 14:00  
東京支部評議員会 14:30～15:20  
東京支部総会 15:30～16:30  
本部総会 16:40～17:30  
懇親会 18:00～19:30

#### 四、会費

会員 5000円  
同伴者 2000円

ただし平成10年3月卒業生  
以降は無料です

会費は当日会場受付にてお  
支払い下さい。

なお、これで総会出席通知に  
代えますので、ご出席の方は5  
月末日までにご連絡をお願い  
いたします。

本会へはご家族同伴を歓迎し  
ますので、多数お誘い合わせの  
上ご出席下さい。

来るべきものがきた。大東亜戦争勃発時、何とはなしに感じていた戦争の悲惨な終末に一歩近づいたと思つた。既に海軍の重鎮山本五十六元帥も今は亡く、これからは制空権並びに制海権をアメリカに握られて悲惨な戦いになる。我々青年は早かれ遅かれその中に放り込まれる運命にあり、それが我々の義務と考えていた。恐らく戦場で命を落とすことになるであろう。しかし、その運命から逃避する気持ちは更々なく、戦死もそれが国のためであれば、運命として受け入れることを厭はなかつた。

#### (ル) 謝恩会

電気工学科では毎年卒業に当たって、在学中お世話になつた先生方をお呼びして謝恩会を開催するのが例になつてた。総代だった私は早速その企画を始めたが、昭和18年8月と言えば、既に日本軍はガダルカナルの戦いに破れ、撤退を余儀なくされた後のこと、日に日に戦局は厳しさを増していた。会場は都ホテルと京都ホテルが毎年交互に使われていて、京都ホテルの番であつた。この頃になると可成りの生活必需品が不足し、各種の物資が統制下に置かれ、切符による配給制になつてた。

謝恩会にはお酒は付きものである。ところが、酒は切符制で謝恩会では切符は発行されないのである。せめて乾杯だけでもと思つた

がなんともならない。やけっぱちで

「水杯で乾杯するか。」と冗談の積もりで言つた言葉が、必ずしも冗談になり切らなかつた。卒業すれば殆ど全てのクラスメートは軍隊に入隊することになつていたし、そうなれば命の保証は何もないのである。あるいはこれが最後のクラス会になるかも知れないのである。

なんとかならないかとホテルに談じ込んだら、取つて置きのお酒があるから、それなら少しはお出しできると言うことでやつと格好を付けた。

謝恩会の日模様についてはどうしても思い出せない。ただ容易に想像できることは、卒業の嬉しさ華やかさと言つた雰囲気ではなかつたことは確かである。かと言つて出征兵士を送る送別会のように、酒の勢いに任せて空元気氣勢を挙げることもなかつた筈である。静かに過去の思い出を語り、行く末を想うことで精一杯だったのではなかつたかと思ふ。

#### (オ) 卒業式

我々のクラスの卒業式は昭和18年9月23日に大ホール(時計台下の講堂)で行われた。しかし卒業する我々を待ち受けていたのは苛酷な戦争であつた。クラスメートの大部分は、卒業前に陸軍あるいは海軍の技術中尉の制度(最初6

ヶ月だけ軍人としての基本的訓練を受けた後、直ちに中尉に任官し、各々の専門に応じた技術的用務に服する兵役制度)に応募して技術将校の道を選んだ。もし志願しなければ、戦時中のことで、兵隊検査第3乙種合格者まで召集されて兵役に服するのが常であつた。召集で軍務に服した場合は、技術ではなく一般兵科の幹部候補生の制度で、1年間の訓練の後少尉になる道はあつたが、それよりは特技を活かしつつ将校になるまでの訓練も比較的楽な技術中尉の道を選んで選んだのである。

#### 陸・海軍の技術中尉の試験に合格した者(不合格者は数える程しかいなかった)

は入隊が目捷の間(9月25日頃)に迫つてた。したがつて地方の出身者が卒業式に出席することは到底不可能であつた。2年余の留学を終えて錦を故郷に飾るところではなく、家で待ち構えていたのは入隊の壮行会である。壮行会と言えば響きは良いが実質は送別会であつた。戦局は日に日に厳しく、帝国軍人としての命の保証もない生活が待構えていたのである。人生最後の卒業式の感傷に浸る余裕など全くなく、卒業式は欠席して一刻も早く帰郷の上、親類縁者や友人と卒業及び入隊の挨拶を交わすこととなすべきことが余りにも多かつた。折角決まった就職先にさえ、顔を出す

暇もなく入隊した友達が多かつた。

僅かに卒業式に出席できたのは京都付近の出身者及びすぐには入隊の必要のない限られた人間だけだつた。向日市に住んでいた親しい友人などは、大学で卒業証書を受け取るや、その足で京都駅に駆けつけ、待ち受けている家族が持参した入隊に必要な品物を入れた「奉公袋」を鷲掴みにして、入営のため東京に向かつた。見送りにきた私はあの時の別れに悲壮とも言ふべき強い感動を受けた。一生を通じて忘れようとして忘れられない思い出として、未だに脳裏に焼き付いて離れない。

我々の卒業式には、長い間の学生生活を無事終え、いよいよ明日から社会人になるのだと言う感慨は全くなく、卒業式のちよつぱりセンチメンタルでしかも華やいだ雰囲気などは到底望むべくもなかつた。私こそ更に2年間の入営延期が保証されていて、そんなに追い詰められた気持ちではなかつたが、入営が明日に迫つている友達の心情を想うと胸が締め付けられるような気がするのであつた。そんなことばかり考えていた所為か卒業式における総長の式辞の内容は申し訳ないが記憶に残つていない。

本来、大学の卒業式は学生時代の最後の卒業式であり、人生の中

で最も感慨が深く何時までも記憶に残る筈である。小学校や中学校の同窓は同じ学校で同じ時期に学生生活を共にしたことに基づく仲間意識がある。ところが大学の場合は少し様子が違う。大学特に自然科学系学部では、講座単位でそれぞれ専門があり、学生は卒業研究で属した講座の専門の分野の会社就職し、終身雇用制の発達した日本の社会にあつては、ほぼ一生その分野で働くのが普通である。従つて大学の教官と学生の付き合いは、単に学生時代の師弟関係だけでなく、卒業後も学会や研究・技術指導などでお付き合いが続くのである。また、学生同志の間でも同じ分野で働く仲間意識が働き、単なる学校の同窓という関係だけでなく、互いに助け助けられることが多い。従つて同じ講座に属した仲間意識は、教官と学生の関係を越えて非常に強いのであつて、平和で豊かな最近では、卒業式の後、すぐには別れ難く、大学の各所で講座単位で記念写真を撮つたり、夜には街に出て卒業コンパを開いたりするのが習わしになつてくる。コンパでは教授も学生と一緒に騒ぎ、一次会では済まないで二次会に付き合うのが通例である。

ところが我々の時代には、酒は配給制で、街では酒を飲ましてくれるところは一軒もなく、しかも

不安と焦燥の中での卒業式で、とてもじゃないが卒業を楽しむと言う雰囲気ではなかった。それが私達が生きてきた時代である。今の平和な時代の有難さが身に沁みる思いがする。  
(次号に続く)

## 私の健康法 (続)

石川 進 (昭26年卒)

4年前、「私の健康法」なる駄文をご披露し、医者との意見の違いに自分の体を実験台に「大腸ポリープを除去しない。仮にポリープがガンの卵であってもそれを食事で治す：医者は100%信用してはいけない」と書きました。そしてその年の年末

それでもガン検診うけますか

(専門家が教える本当の話)

近藤 誠 著

を読みました。正に我が意を得たりです。今回は私の体験と、当時かなり評判になって色々論争もされ、そしてひよつとしよう忘れかけられて、「相も変わらぬガン検診」が行われている事について私見を述べたいと思います。

先の「私の健康法」の要点は

その1 食事

加工の少ない食品を出来るだけ捨てる(少くなく食し、(自然食)適度に体を動かす。畑仕事で土に触れば最高です。

その2 医者は100%信用しては

いけない。病気にもよるが薬でなく食事で治せないか検討したい。ここでご紹介した本が「食事で治す本、ジーン・カーパー著」です。次は78頁の抜粋です。

毎年5万人のアメリカ人が結腸癌にならずにすむ。食物に含まれている植物繊維こそその薬である。アメリカ国立ガン研究所雑誌でガン専門医のグループが述べている。：結腸癌からあなたを守るには小麦のふすまのシリアルを食べるべきだ。

私は平成6年4月ひよんなきっかけで大腸の検診(バリウム注入によるX線写真、気持ちの良いものでありません。)を受けました。ガンなど絶対ないと信じていました。結果は「ポリープがあります。何時取りましようか、簡単に取れますよ」と言われました。その時は未だ近藤先生の本は出ていませんでした。またジーン・カーパーの本も読んでいませんでした。しかし私は、痛くも何ともないのに直ぐ「手術」と言う医者(私の息子ぐらゐの年齢、ポリープ切除手術は優秀と言う評判)に何となく疑問を抱き、「ちよつと待ってくれ」と言いました。医者は怒りました。喧嘩別れです。私は一応心配で医者(胃腸が専門ではない)に相談しました。「うーんポリープか、一応取る事になつとがなあ」と誠に頼りない

返事でした。その時読んだ本が「食事で治す本」です。私はこの本に賭ける事にしました。

毎朝食前、オールブラン(小麦のふすまのシリアル)にヨーグルトと蜂蜜をかけたものをコップ一杯食べます。かなりの量ですからその分玄米は減らします。これでポリープは消えたか?5年間快便が出ていますから、この賭けは私の勝でしょう。確認のためにはもう一度検査の必要がありますが、あの不愉快な検査は御免です。

私はこの他にこれまで3回、医者の言う事が間違っていた(多分)という経験があります。最初は昭和20年旧制高校2年の時、勤労動員で慢性大腸カタルの下痢(ひどい水様便)が続き休学、体重は40キロまで減りました。校医(京大病院)の指示は「この薬を飲んでおかゆを食べ、なるだけ体を動かさず、寝ておれ」でした。この事は先の「私の健康法」で書きました。医者の言う通りにしていたら私の人生は終わっていたでしょう。下痢の原因は「栄養失調」だったと思います。終戦後栄養失調は「流行語」になりましたが、この時はまだこの言葉はなかったと思います。

でも続けていきます)体を動かさないと食欲が出ません。出来るだけ日光に当たり、ゆつくりと畑仕事をしました。医者の薬は止め、お茶代わりにゲンシヨウコを飲みました。未だ19才、私に生命力があつたのでしよう。自然の恵みを受けてだんだん下痢の回数は減り、水様便は固まり体力も回復、かなりの重労働(畑仕事)が出来ようになりました。この経験が私の健康哲学の元になりました。

2回目は昭和30年頃、治療すれば多分抜かずに済んだ歯を抜かれた事です。私は歯の質が良く、73才の今抜かれた歯はこの1本だけ、本当に残念な事です。

中学時代鉄棒で失敗、顎を砂場の境の木で強打して前歯が欠け、神経を抜いていました。これが十数年たつて痛み出し、藪歯医者に抜かれました。後で具合が悪く別の医者に行きましたら「何でこんな歯を抜いたんだ。田舎の医者は直ぐ抜くんで困る。抜くのが一番保険単価が高いから」と言われました。が後の祭りです。

3回目は昭和38年、人間ドックがやはり出した頃です。ドックで「胆石があります。取っておいの方がいいですよ」と言われました。「胆石症は体が弱っている時とか、旅行先でよく起こる。その時は手遅れで大事に至る事がある。胆石は健康な時に取った方が良い」と

のこと、教科書にも書いてあつたそうです。私は「痛くなつたらその時の事」とそのままにしておきました。30年間無事でした。平成6年のドックで、これを見つけた先の医者が「取りましよう」と言つたわけです。30年間痛くもなんともないのに、勿論断りました。今度は別の友人に聞きました。その回答、「サイレントストーンは取るものでない」でした。そして4回目が大腸ポリープです。

病気と言うものはその人の年齢、健康状態、周囲の環境そして医療技術の進歩等々、ひとつとして同じ条件になく、医者(の判断)処置が絶対に正しいとか間違いないとは言えないし、事実殆どは正しいものでしょう。しかし手術を受けるのは自分です。一度傷つけられたらとり返しが出来ません。「手術」と言われたら一応疑つて掛かる慎重さが必要だと思ひます。

特にガン検診について近藤先生の本を読んで、私の経験(ポリープ切除勧告を断つて5年、胃腸は無事、毎日健康便です)とも照らして、日本の殆どの病院で行なわれている「ガン検診(症状が無く、予防的な検診に限る)」が間違っている(と確信するようになりました)。

人間ドック検診を受けている、又受けようとしている方は是非こ

の本をお読み頂きたいのですが、要点をご紹介します。

先ず

「第一章ガン検診百害あって一利無し」

ガン検診は不利益だらけ、人間が臓器を失うと何が起こるか」

実はガン検診には不利益ないし不都合が山のようにあります。しかし皆さんはどういう不利益がどういう規模で生じているかを知らされていませんし、それどころか、

どの程度の利益があるかも知らない筈です。早期ガンを発見すると、「早期発見おめでとう」と祝福する医師がいます。早期ガンはほぼ100%治る。あなたはガン検診によって、ガンに勝った勝利者だ。というのです。でもこれはお目出度い事でしょうか。

早期発見の後、普通は手術して臓器の全部ないし一部を切除する事になります。その手術の後は、こんな生活が待っているのです。

乳ガンの例：胃ガンの例：更に肺ガン大腸ガンの例：

どんな臓器でも必要があつて、人間の体に備わっているのですから、それを切除すれば、必ず何らかの不都合が生じます。(少し省略して続けます)

ここまで説明してきたように、読者の方は手術後の不利益について少しでも知っていたら検診をチヨット考え直してみようか、と思

われた筈です。しかも検診にガン死を減らす効果が無いとしたらどうでしょう。第5章で詳しく触れますが、これは事実です。だとすれば、ガン検診でガンが見つかり治療・手術を受けた患者さんはただ苦痛を受けただけと言う事になってしまいます。検診の有効性を再検討してみる事はあなたにとつて必要な作業と言ふべきです。(中略)

はつきり言いましよう。ガン検診には、まったく意味がありません。百害あって一利無しです。読者の方は健康な生活を送っていききたいのならガン検診を絶対に受けるべきではありません。本書では、検診の不利益を、肉地面(第2章、第3章)精神面(第4章)の両面からわかりやすく指摘し、その後で、検診には本当にガン死を減らす効果があるかどうか検討(第5章)します。

また、検診を受けない場合、万一ガンがあつたら、そのガンは放っておかれることになりませんが、それでもかまわないだろう事も説明します(第5章)。ガンには放っておいても天寿をまっとうできる「のんびりガン」や、自然に消えてしまう「消失ガン」もあるのです。これらのガンは、切除する必要などどこにもありません。(引用を終わります)

後は会員の皆様がこの本を読ん

で判断ください。「あまりにも過激だ」とのご意見もあります。が私は、「(第6章)根拠のないガン検診がどうしてここまで広まったか」を読んでハタと思ひ当たりました。「決めた事は絶対に変えたらぬ」官僚の性です。今話題の藤前干潟、あれほど頑強に抵抗した名古屋も世論に押され四面楚歌で計画を撤回しましたが、諫早湾の埋め立て、長良川河口堰など出来てしまいました。

ガン検診の有効性については専門家自身が信じ込んできたという歴史があります。私はこの本の方を信じます。このような本が出るに関係者は必死になってこれを叩きます。病院も、医師も、機器メーカーも、さらには検診に関わるお役人、その数は膨大です。

これらの人の職場、市場がなくなくなり。始まったものはどんな批判があつても止めないのが官僚、そしてその手先の悪徳医者です。止めさせるには我々国民自ららが検診を拒否するしかありません。残念ながらこの本の著者(近藤誠先生)の信奉者は私を含めて少数派のようです。しかし、「欧米ではガン検診はやっていない」というのはどうやら本当のようです。また、日本でも実際にガン検診を廃止した長野県の村(秦草村)の例が報告されています。

近藤先生の言う事が本場で、全

国の病院のガン検診(症状があつての検査は除きます)がなくなれば、日本の医療の大革命です。医療市場は大混乱、関係する医者、看護婦、そしてお役人は失業するかもしれません。しかし、誤った医療の犠牲者はなくなり、恐らく数兆(チヨットオーバー)ですか?)円の医療費が節約されるでしょう。因みに、「大腸ポリープの除去費用」は保険で支払われるので我々は無料だと思つていますが、病院の収入は当時で一件9万円だそうでした。お客様(患者)に頭を下げる必要はありません。「慇懃無礼に」お客様を脅しておればいいのです。こんなおいしい商売があるでしょうか。

私は昭和50年頃から毎年一回「人間ドック検診」を受けていました。これは会社が補助まで出して(確か5、6万円のところ本人負担は1万円ぐらいだったと思います)薦めた事と、ドックだと言えば気楽に骨休めが出来たからでもあります。その間いろんな指摘を受けましたが、精密検査の結果は殆ど何も出てきませんでした。最後が5年前の「胆石とポリープ」です。そして近藤先生の本を読みました。以来ドックは止め、「私の健康法」でいく事にしました。食事の他、家庭菜園(健康と新鮮な無農薬野菜が採れます)、テニスと週1回剣道で汗を流します。

剣道はかなりの瞬発力と持久力が必要で。何歳までやれるか?これが私の「健康バロメーター」です。医者は病状が出た時行けばいいのです。私はここ10年の間に、尿路結石・椎間板ヘルニア・盲腸炎、それに原因不明の眩暈で救急車、と随分医者の世話になりました。そしてその適切な処置で命拾いもしました。痛い、発熱、気分が悪い等の症状があれば医者に掛るのは当然です。こんな時のお医者様は正に神様、お任せするよりありません。ただ、薬漬け・検査漬けは要注意、「医者は100%信用するな」です。しかし「ガン検診」は病気とは違います。アメリカではガン検診の有効性が証明できないからやらない。日本では「証明できなくても」患者の不利益が山ほどあつても、始まったものは続ける。国民がどれほど迷惑しよう、官僚や悪徳医者(悪徳医者というべきか)は我々の血税(保険は税金と同じです)を使いまくっているのです。

ドックは止めましたが、心電図・血液・尿の検査は無料の住民検診を受けています。

近所の公民館、往復の時間も入って30分程度です。考えてみますとドックで一泊が必要なのは「胃の透視」だけのためです。実際は半日ドックで十分ですが、正直な医者は「年一回ぐらいは骨休めし

て下さい」と言うぐらいます。

私は子供の頃はひ弱で、病氣ばかりしていました。昭和20年危機を乗り越えてからは、少年時代の剣道と大学時代の合唱、そして「私の健康法」のお陰で今正に「老春」を謳歌しています。この「ガン検診反対」は大きな運動に発展させたい希望は持っています。私の力ではなんともなりません。事務局から原稿の依頼を受けて、洛友会会員の皆様に少しでもお役に立てたらと書かせて頂いた次第です。旧制中学一年、最初の漢文で習いました。

身体髪膚はらふこれを父母に受く、  
敢えて毀傷せざるは孝の始めなり  
(孝経)

父母に頂いた大切な体を騙されて傷を付けないようにしたいものです。

文獻

食事で治す本(ガン編)

ジーン・カーパー

飛鳥新書

それでもがん検診うけますか

専門医が教える本当の話

近藤 誠

ネスコ/文芸春秋

## 清野先生と画文集

宇田裕重(昭34年卒)

学生の頃、清野先生の電磁気学

講座を受講し、長身、端正な先生の影響が強く残っている。しかし、その清野先生が後年絵を描かれるようになられるとは想像もつかなかった。ましてや、卒業後一度もお会いした事なかった自分が、恩師の画文集の発行に関わることになるとは夢にも思わなかったことである。人の縁は何処でどう繋がっているのか計り知れないと、今更のように思うのである。

私の勤める雑誌社「電氣評論社」からこの4月、清野先生の画文集を出版した。先生は、数年前にも美術専門の出版社から大変立派な画集を出版されたが、この度は出来るだけ沢山の方に絵に親しんで貰いたいとの願いから、普及版としての発刊となった。

これを機会に、京大名誉教授・工学博士にして画家という異色の経歴を持たれる清野先生と絵について、私の知るところを少し述べさせていただきます。

清野先生は京大を昭和53年に63才で定年退官された後、若い頃より嗜まれていた絵に本格的に取り組まれ、今や画伯「蒼花」として活躍されている。各地の画廊での個展、国内外の展覧会への出展のほか、医学専門誌のカット絵を長年に亘って描かれているのを始め、仏教誌や「京都大学工学広報」の表紙絵なども描かれている。平成6年からは「電氣評論」誌に水

墨画とそれにちなむ随想を掲載されている。今回の画文集は電氣評論掲載の水墨画を中心に、これに彩色画を加えてハンディな本として出版された。工学博士にして画家という異色の経歴もさることながら、定年退官されてから絵に取り組まれ、今日を築き上げられたエネルギーの大きさに驚くほかにない。しかも殆ど独学とお聞きするので、二十数年自ら孤高の剣を磨き上げられたことになる。

私が三十数年の時を経て先生にお目にかかることになったのは、大谷泰之先生のお計らいである。現在の電氣評論のルーツは、京大電氣教室の同名の機関誌であることとはご存知の方も多いと思うが、今は全国誌として発行されている。そのルーツの故か、誌面にはかなり難しい論文が並び、字も小さく、読み通すには相当の努力と忍耐を必要とする。技術一辺倒の感じでやや潤いに欠けるところがあった。

私が思いがけない縁で、電力会社の技術屋から電氣評論の編集に携わるようになって、このイメージを何とか払拭したいと思い、色々誌面の刷新に取り組んでいたところ、当時社長をされていた大谷先生から、清野先生が絵を描かれるので一度お願いしてみてもどうか、との勧めをいただいた。その時は不覚にも、趣味程度にされ

ているものと自分で勝手に思ってしまった。ほどなく、京都市内の画廊で、個展を開かれている清野先生に久方ぶりにお目にかかった。

先生は既に80歳位になられていたと思うが、長身の背筋をピンと伸ばされ、声も若々しいのに驚いてしまった。足腰がしっかりとされているのは、画題を求めて山野を逍遙され自然に親しまれているせいであろうか。お願いの向きをお話しすると、「電氣評論は昔、自分も編集に携わっていたことがある馴染みの雑誌だ」と快く引き受けて下さった。

絵にあまり知識を持ち合わせない自分にも、画廊で拝見した絵はいずれも気品に満ちた素晴らしいもので、趣味といった領域を遙かに超えたものであることは分かった。また、伝統的な構図と違う新鮮な何かを感じ、素晴らしい絵を掲載できることに胸躍る思いであった。

お陰様で、平成6年7月号以来ずっと水墨画と随想を掲載、誌面に潤いと安らぎを与え続けていただいている。

平成7年には、20年に亘る画業の集大成として立派な画集を美術専門の出版社から初めて出版された。私も早速画廊で求め大切にしているが、その画集の「まえがきに添えて」に、今もお医者様とし

て診療を続けられている奥様の一文が載っている。その一部分を奥様の許しを得て引用させていただく。

「……まだ京都大学在任中の還暦の年に、呼吸器に障害を生じまして、それを契機に、若い頃から吸い続けておりました煙草をやめ、20年も筆巻きに眠っていた絵筆を取り出して絵をかき始めました。

その後京都大学を退官し、大阪電氣通信大学へ勤めるようになりましてからは、少し時間の余裕も出来、また70歳で同大学を退職しましてからは、毎日が日曜と申しつつ、晴耕雨読ならぬ晴天スケッチ雨天お絵かきということが多くなりました。戸外のよい空気のおかげでしょうか、体も丈夫になり、個展を催すことが出来るようになりました。

四季の草を描くために宇治川へ通いましたり、羅漢さんの写生に深草の石峰寺へも幾度か根気よく足を運んだようでした。石峰寺の住職さまが蚊を防ぐために香取線香を貸して下さいました。私も一度山科の勧修寺の白梅をスケッチに行きますのについてまいりましたが、画題に向かっているときは話しかける隙とてなく、ひとりで花を見てお庭を一巡して帰って来ました。

いつか夕ご飯の折にわたしに、

自分が絵をかくのは、科学者の目、技術者の手、そして詩人の心で、と話したことがあります。昭和の終り頃のことです。...

清野先生は、昨年の教室百周年記念祝賀会の席上、最年長名誉教授として祝辞に立たれ、印象深いお話をされた。「美醜の感覚をもっと大切にしていたきたい。美しいものに心を動かさない人は人間として発展がないし、醜い事に鈍感な人は墮落があるばかりである。美しいものに感動し、醜いものを嫌悪するような心を失わないようにして欲しい」と訴えられた。勿論これはビジュアルな対象物に限ったことではなく、行動の美学のようなものも含めての事と思う。最近の世の風潮を考え合わせると、誠に言われるとおりで、私達工学系の間も技術さえ追っかけていけばよい、というわけにはいかないように思う。

長尾総長は、二十世紀は心の時代と予測されているが、清野先生の歩んでこられた道のりを思うにつけ、工学系の間も自然に触れる余裕を持ち、豊かな心で技術を発展させていかなければならないとしみじみ思う。...

自分には、花の絵一つ描く力はないけれど、せめて美しい花を見て感動する心は失いたくないと思っている。

紀伊水道 直流連系設備について

山地幸司(昭48年卒)

四国は今年いよいよ三橋時代を迎えようとしている。すなわち昭和63年に四国と本州を初めて結ぶ瀬戸大橋(児島-坂出ルート)が開通、10年後の昨年明石-鳴門ルートの明石海峡大橋が完成、今年はいよいよ3本目のしまなみ海道(尾道-今治ルート)が開通する。

この完成により四国と本州が3本の橋によりしっかりと結ばれ、人と物の移動が益々盛んになり経済社会活動の飛躍的發展が期待される。さて、四国と本州とを繋ぐ電気の道も、来年3本目のルートである紀伊水道直流連系設備が完成しようとしている。電気の本州四国連系ルートは瀬戸大橋に先行すること26年前の昭和37年に四国島内の周波数と需給の安定化をはかるため、現在の尾道-今治ルートとほぼ同じルートで瀬戸内海に浮かぶ島々を架空送電線で結ぶ22万ボルト中四連系統で最初に結ばれた。2本目は平成6年大容量原子力開発にあわせ児島-坂出ルートの瀬戸大橋に交流ケーブルを添架する形で50万ボルト本四連系統が開通し、四国と本州間の電気の高速ハイウェイの役割を果たしている。最後の3本目が、徳島県の阿

南市と和歌山県を50万ボルト直流海底ケーブルで紀伊水道を横断して結ぶ紀伊水道直流連系設備である。

現在、徳島県阿南市で、関西電力など西日本5社の電力需要に対応するため、日本最大規模の橋湾石炭火力発電所(電源開発105万kw 2基、四国電力70万kw 1基計280万kw)が建設中であり、広域電源である電源開発の開発分のうち140万kwを関西へ、残りを関係4社へ送電することとしている。

西日本の電力各社は50万ボルト交流送電線で連系されており、四国と本州間も四国の讃岐変電所と中国の東岡山変電所間が50万ボルト本四連系統で結ばれている。橋湾火力の発電電力を四国および西日本各社へ送電するため、まず橋湾火力と讃岐変電所間を50万ボルト送電線で結ぶこととし、これにより一応受電各社への送電ルートが確保されるが、関西方面へは140万kwという大電力送電となるため、関西内の送電線容量不足があ

って送電できない。このため、橋湾から直接海底ケーブルで紀伊水道を横断し関西へ送電する案が考えられた。交流の場合は、海底ケーブルの充電電流のためケーブル容量が食われ、大電力送電するためにはケーブル条数が直流の4倍となりケーブル敷設や経済性で難点があるとともに、交流のルー

プ系統となり電力が思うような配分で流せないなど問題があったため、直流を採用することとした。紀伊水道直流連系設備の設備規模は、当初直流電圧±25万ボルト、送電容量140万kw、最終直流電圧±50万ボルト、送電容量280万kwであり、最終設備が完成すると直流電圧、送電容量とも世界最大級のものとなる。紀伊水道直流連系設備の設備構成は、四国の阿南変換所から50kmの50万ボルト直流海底ケーブルと50kmの架空送電線を経て和歌山側の紀北変換所に至るものであり、関西、四国、電源開発の電力3社が共同で建設を行っている。

直流送電は、1954年スエーデンのゴッドランド島と本土を結ぶため世界で最初に導入されて以来、長距離大電力送電や海底ケーブル送電に適しているため次第に増加し、現在世界で約4000万kwの設備が運転されている。日本でも、1965年に佐久間周波数変換所30万kwが水銀バルブを使用してスタートし、日本で最初にサイリスタバルブを使用した新信濃周波数変換所(60万kw)、本格的な海底ケーブルを含む直流送電である北海道本州連系線(直流電圧±25万ボルト、送電容量60万kw)が運転されている。

紀伊水道直流連系設備は日本はもとより世界的に見ても最大級の直流電圧、送電容量を有しているため、建設に当たっては従来技術がブレイクスルーする多くの研究開発が必要であった。

まず変換所の中心機器であるサイリスタバルブであるが、従来の単機30万kwが今回70万kwと2倍強となるので従来技術の延長ではサイリスタバルブの高さが50万ボルト

洛友会

新名簿発行について

平成12年用-新名簿が平成11年11月下旬に発行されます。

例年のごとく、名簿送付対象者は平成10年度の会費納付者となっております。また、名簿発送を11月とする関係上、記載事項の訂正締切り期日は8月20日と致します。

会員各位には現在の名簿をチェックしていただき、変更事項のある方は期限までに名簿添付の基本調査票(葉書)、または電話にて事務局までご連絡下さい。特に勤務先所属部課名等が変わった方もお願いいたします。

より正確な名簿を作成するため会員各位のご協力のもと、よろしくお願い申し上げます。



ト時に15メートルにもなり耐震設計上問題がある。そこでサイリスタ素子を、従来の4インチ6kv2500Aを6インチ8kv3500Aと高耐圧大容量化する事とした。素子を高耐圧化すると通電時の損失(オン電圧)が大きくなり、一方オン電圧を小さくしようとすると逆回復電荷が大きくなりサイリスタに逆電圧がかかって電流が切れるまでの時間(ターンオフタイム)が仕様の400マイクロ秒を満足できなくなる。オン電圧とターンオフタイムのトレードオフの改善については、金拡散などの従来技術の延長では困難であったがプロトン照射によるキャリアのライフタイム制御によって一挙に解決し高耐圧で損失が少なく切れ味のよい素子の開発に成功した。この素子の開発と水冷フィン、抵抗器などの大容量化により同一体積で北本時代の2.5倍の変換容量を持つモジュールを開発し最終的に50万ボルト時でも北本と同じ程度の高さ11メートル以下のサイリスタバルブの開発に成功した。

次に世界初の直流ガス絶縁開閉装置の開発である。阿南変換所は海から約2kmと近く塩害対策が必要であったため今回開発を行った。世界的には1987年にゴットランド島で15万ボルトの直流ガス絶縁母線が実用化されているが、今回のように直流50万ボルト

ガス絶縁母線、直流開閉装置は極めてハイレベルの技術的チャレンジであった。直流ガス絶縁開閉装置の開発に当たっては2つの解決すべき課題があった。1つは導電性異物の問題である。導電性異物がガス絶縁母線のタンク底面にある場合、交流の場合は電界により異物が浮上しても交番電界であるため再び底面に落下しこれを繰り返すため絶縁低下はほとんどないが、直流の場合は特に導体が負極性の場合異物が一旦浮上して高圧導体に達してくっついたまま離れないいわゆるファイアフライ現象を起こし雷インパルスに対して絶縁性能が半分以下に低下する。このため品質管理の徹底により異物の混入防止をはかるとともに万一混入しても異物を捕獲するトラップ装置を設置し、また3ミリ以下の異物が浮上しない電界となるようにタンク径を確保するなどの対策により問題をクリアした。もう1つの問題は絶縁スペーサの帯電である。直流電圧の影響でスペーサ表面が帯電し逆極性サージにより耐電圧性能が低下する。この対策として帯電しにくい、フラットに近く導電性異物に強い沿面距離の長い直流専用のスペーサを開発した。

次に制御装置であるが、直流送電の性能の成否は制御性能にかかっているといっても過言ではない。交流の場合、送電線に雷による地絡事故があった場合一時的に電圧がゼロ近くまで低下するが70ミリ秒後には事故線路が系統から切り離され電圧が回復し送電電力がもとへ戻る。一方直流送電の場合には従来技術では交流系統に地絡事故が発生すると転流失敗を回避するため一旦運転を停止し500ミリ秒後に再起動する制御方式としており、事故中および事故回復後しばらくは送電電力が元へ戻らず交流系統に悪影響を与えるという問題があった。このため事故後素早く送電電力を回復することが課題であり、この対策として余裕角を直接高速に検出しこれにより必要余裕角を確保し運転継続する方式を開発した。これにより直流送電は一步交流送電に近づいたことになり、より使いやすくなったといえる。

紀伊水道直流送電設備は既設の50万ボルト交流系統に接続され、交流と直流のループ系統を形成することから、直流送電の高速潮流制御機能を活用し、交流系統事故時に直流電力を制御し交流系統の電力動揺を抑制するパワーモジュレーション制御や交流送電ルート事故時の周波数制御や緊急電力制御機能を有し、交流系統安定化に大いに貢献することが期待されている。

以上今回のプロジェクトの代表的な研究開発状況を述べてきたが、これらについては平成4年から8年にかけて、関西、四国、電発の3電力と東芝、日立、三菱、日新のメーカ4社の共同研究で行われ、いわばオールジャパンの頭脳を結集したプロジェクトであり、これら研究開発の成果はIEEE論文採用が10件、電気学会全国大会、エネルギー部門大会発表が200件以上と日本および世界の直流送電の技術発展に大いに貢献したと考えられる。

小生は平成4年から平成10年までの6年間このプロジェクトの計画、研究開発、設計、工場試験までを担当し技術屋冥利に尽きる貴重な経験ができた。

紀伊水道直流送電設備は現在変換所設備の据え付けや海底ケーブルの敷設がほぼ終了した段階であり、今年10月からいよいよ電気を実際に流して制御装置などの機能を確認する系統連係試験を行い、平成12年7月に運転開始する予定である。

同窓会だより

昭和18年卒クラス会

昭和18年卒業者のクラス会は、このところ毎年開かれている。今年には卒業55周年にあたり、本来な



らば恩師をお招きして盛大(?)に行うべきであったが、電気教室創立百周年の記念行事が9月26日に実施と決定していたので、これに合せてクラス会終了後希望者は記念行事に出席できるように計画した。

かくして、先ず9月25日夕刻から京阪ホテル京都において懇親会を開いた。出席者は夫人5名を含めて総勢20名。戦中戦後頑張り続けた級友達も、やはり寄る年波には勝てず、故障者も散見される様になり、一抹の淋しさを感じられ

だが、一言づつの発言を求められるという事になると流石に卒業55年の年の功からか名言続出、大変に盛り上った。宴会後も話が尽きず、ホテル内の喫茶室に席を移しての懇談が夜更けまで続いた。来年度のクラス会を関東在住者が引受けることが了承され、初日を終えた。

翌26日は午後の教室創立記念行事までの時間を利用して、希望者のみで京都大学を訪問した。旧電気工学校教室玄関前の銀杏の木の下に集った人数は夫人3名を含め総勢12名であった。在学当時とは全く見変わった教室関係の建物を南側から感慨深く眺めながら、教室の東南にあたる場所に新設された耐震構造の京都大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー(KU-VBL)に至り、施設長松重和美教授の懇切な案内により施設内を見学した。

この研究施設は平成7年の政府補正予算で設立が決定したもので、先進電子材料開発のための原子・分子アプローチを主たるテーマとして、工学研究科の電気・電子・化学・材料系の院生、研究者、博士研究員、海外からの招聘研究者および学外の産学官の研究者を含む多様な人員構成をもって、新産業創出につながる革新的成果を目標に活動しているとのことである。設置されている装置類の立派

なのに感心すると共に、このような施設が学内に設置されたことにより次第に産学協力の実が挙って行くものと力強く感じた。

VBL見学後は三々五々好みの道順を経て昼食会場の国際交流会館へ赴く予定のところ、あいにくの驟雨に見舞われ、早々にタクシ―に分乗して会場へ直行した。会館での昼食後、来年の再会を約して散会し、一部の者は電気教室創立百周年の記念会場へ向った。

川口龍夫・池上淳一記

事務局だより

本部総会のお知らせ

平成11年度洛友会本部総会は6月19日(土)、東京目黒の八芳園において東京支部総会に引き続き行なわれます。詳細は別掲載の記事をご参照下さい。

会員の皆様方多数のご出席をお待ちしております。

また、各地区の支部総会は左記の日程で計画されております。

- 4月27日(火) 北海道支部
5月7日(金) 九州支部
5月21日(金) 中国支部
5月22日(土) 関西支部
5月28日(金) 四国支部
6月5日(土) 北陸支部
6月12日(土) 中部支部
なお、開催場所、時間など詳しく

しいことについては、各支部からご案内があります。ぜひご出席をお願い申し上げます。

名簿広告掲載のお願い

本年11月下旬には平成12年度版新名簿の発行を予定しております。名簿には例年どおり会員企業を中心に広告を掲載いたします。各支部役員の方々を通じて依頼されますので各社とも従前どおりお申込みをお願い申し上げます。

洛友会会費納付状況について

平成10年度の会計事務も会員各位のご協力により完了いたしました。例年のとおり、会費の納付状況についてご報告いたします。

平成11年2月末現在の会員数(A)は6235名で、この一年間に会費を納付して頂いた会員数は2730名(B)でした。

納付率(B/A×100%)は43.8%

で図1に示しましたように平成3年度より減少傾向で推移しております。また、図2に示しましたように卒業年次別では昭和35年以降の卒業者の納付率が低い結果となっております。これにより全体の納付率を引下げています。

本年は名簿の発行のほか、皆様のお金をベースに洛友会活動を一段と活性化するため、格段のご協力をお願い申し上げます。

4月号には、平成11年度分の会

費振込用紙を同封させて頂きましたので、お手数ですがよろしくお願ひ申し上げます。事務局

編集後記

例年より早く桜前線が北上し、新緑の季節を迎えました。京都大学では3月23日・24日に卒業式が行なわれ修士93名、学部128名の新会員が入会されました。心よりお祝い申し上げます。

また、本年早々の2月には四国支部の渡部兼雄さまが百歳を迎えられ、洛友会会員では二人目の長寿者で、誠にお目出度い次第です。本年は文中でも記しましたが、新名簿を作成いたします。会員各位の異動がある方は早めに事務局までお知らせ下さい。

事務局 松本 博

計報

Table with 2 columns: Name and numerical value. Includes entries like 山田直一 (10・12・17), 町田元 (11・3・14), etc.

以上の方々がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

